

平成29年度 第2回 明石市立明石商業高等学校魅力づくり検討会議 議事録

日 時：平成29年6月26日（月） 15：00～17：00

場 所：明石市役所分庁舎 4階 教育委員会室

出席者：委員12名（会長、副会長含む）、教育長、事務局6名

【委員】（学識経験者） 廣岡 徹、細川 明子、中嶋 修平
（明石商工会議所代表）西川 勉（代理）
（学校関係者） 長畑 順二、日置 大之、宗石 理、大賀 通孝、
吉永 達生、森本 明子
（行政関係者） 北條 英幸
（保護者代表） 堀川 彰子
*（保護者代表） 井藤 圭順は欠席
【教育長】 公家 裕
【事務局】 平田 高之、藤井 鉄也、藤田 靖、庄司 淳一、
橋本 浩二、山脇 健次

傍聴者：1名

配布資料：（1）次第

- （2）平成30年度兵庫県公立高等学校入学者選抜に関する基本方針について
- （3）平成29年度 通学区域の状況についての記者発表資料
- （4）平成29年度 通学区域の状況についての概要版
- （5）平成30年度兵庫県公立高等学校入学者選抜及び県立芦屋国際中等教育学校入学者選考の日程について
- （6）資料1-1 明石市立高等学校の管理運営に関する規則
- （7）資料1-2 平成29年度 商業科生徒募集要項
- （8）資料1-3 平成29年度 生徒募集要項【商業科推薦入学】
- （9）資料1-4 平成29年度 生徒募集要項【国際会計課推薦入学】
- （10）資料1-5 出願資格関係法規
- （11）資料2-1 遠距離で通学が困難な生徒への支援方策について
- （12）資料2-2 香美町高等学校生と下宿費補助金交付制度
- （13）資料2-3 信楽高等学校全国募集枠入学生宿舎等支援要綱

※（6）～（13）は事前に送付

◎：会長 ○：副会長 □：委員 ●：事務局

1 開会

●事務局

定刻になりましたので、只今から平成29年度第2回明石市立明石商業高等学校魅力づくり検討会議を開会いたします。

設置要綱第6条第2項に基づきまして、出席の確認をいたします。

本日の欠席者は、井藤委員となっております。本日山本委員の代理で、西川委員に出席して頂いております。

委員の過半数の出席がございますので、本会議は成立しております。

次に設置要項第6条4項により、要項に会議は原則公開するが、検討会議の決するところにより、非公開とすることができるということになっております。本日はすべて公開できるものとして傍聴者の入場を許可してよろしいでしょうか。(異議なし)

それでは、次第により進行いたします。

2 議事録について

まず、議事録についてです。

委員の皆様には、第1回検討会議の議事録を送付し、ご確認いただきました。一部加筆修正のうえ、6月5日(月)に教育委員会ホームページに掲載しております。なお、掲載しておりますのは、設置要綱、委員名簿、議事録としております。

それでは、本日の進行につきましては、前回確認しました通り、中学生の進路指導に影響を及ぼすことから、学区のことについて集中して委員の皆様からご意見をいただき協議を進めていきたいと思っております。

それでは、この後の進行につきましては、会長にお願いいたしたいと思っております。

廣岡会長、よろしくお願いたします。

それでは、進行に入ります。

◎会長

2回目ということで前回もご意見いただいたと思いますが、また活発なご意見を、できるだけたくさんのいろんな角度からのご意見を頂ければと思いますのでよろしくお願いいたします。

3 報告事項

(1)「平成30年度兵庫県公立高等学校入学者選抜に関する基本方針」について

まず、報告事項として、「平成30年度兵庫県公立高等学校入学者選抜に関する基本方針」について、事務局よりご説明願います。

●事務局

★資料をもとに説明

◎会長

ただいま、事務局より説明がありました。このことについて委員の皆様からご感想やご意見がありましたら、どうぞお出しください。(意見なし)

(2) 平成29年度 通学区域の状況について

続いて、「平成29年度 通学区域の状況」について、事務局よりご説明願います。

●事務局

★資料をもとに説明

◎会長

ただいま、事務局より説明がありました。このことについて委員の皆様からご感想やご意見がありましたら、どうぞお出しください。

冒頭申し上げましたように、さまざまな角度からできるだけたくさん出していただいて、教育委員さんたちの教育委員会議で今後の方向性を決定するさまざまなデータ、資料になればと考えています。多様なご意見をお伺いさせて頂ければと思います。(意見なし)

4 協議

次に、協議に入ります。

まず、本日の資料について事務局よりご説明願います。【資料1-1～2-3】

●事務局

★資料をもとに説明

◎会長

ただいま、全県、全国へ学区の広がりがあった場合として、資料を示されました。香美町の支援制度は、遠方から来る生徒について奨学金を補助することで、町の活性化とともに県立高校の維持をしたいという側面もあるということでご理解頂ければと思います。では、それぞれ資料1、資料2につきましてご質問等がありましたらお伺いしたいと思いますがいかがでしょうか。(質問なし)

協議事項(1)一般入試(学力検査)の全県学区について

◎会長

それでは、協議事項(1)「一般入試(学力検査)の全県学区」について、これまで一般入試への生徒の募集について旧明石学区のまま推移していた経緯があります。全県学区に拡大することについてご意見を伺いたいのですがどうですか。

前回出たご意見を整理してみましたところ、明石市の子どもたちへ不利益は生じないのかということでしたが、示された資料では、特にそういう傾向はないということでした。要するに、神戸・尼崎・伊丹の市立学校の商業科については、3年前から全県学区になり、公教育の受け皿として公平な機会を与えていると言えます。県としては、専門学科は全県学区へという考え方です。明石市立ということで市民の愛着や親しみを失うものではないか、地域へ意識が薄れるのではないかという意見も出ました。

○副会長

明石市の生徒を一人でも多く明石商業高校に入れて頂きたいという思いはある。しかし、進路の選択肢が広がり、本校の卒業生も尼崎まで通学している生徒もいる。明石商業高校の全県学区への拡大は時代の流れではないか。

□委員

全県学区については、連絡協議会において3年間、中学校長に入って頂いて審議しました。結果としては、学力検査については学区を広げてもらいたい。中学校訪問で、加印地区の生徒は推薦入試で受けることができるが、その子が落ちた場合、一般入試で受験できないことに不満の声が出ている。全県学区になるかもしれないという話になれば、特に、稲美中、稲美北中、播磨町の中学校などは自転車で通学できる。自転車で通学できる高校が多くなることで、生徒の選択肢が増えることになる。明商で学びたい生徒が学べる学校になれば、受験の機会が増えると期待が大きい。

□委員

昨年度入学された生徒の保護者やこの数年にわたって明石商業高校へ通学している生徒の保護者の声を聴いてきた。一部の声として明石市内の生徒が入学する割合が少ない気がする。スポーツでしたら他市からの生徒さんがたくさん来られていて、もう少し明石市内から有望な生徒も見頂けたらありがたいのになあというようなお声も一部の保護者から聞こえてきます。

□委員

全県に広げることで、就職先については、地元就職してほしいという考え方がある。全県に広げることでどのような影響がでるのかわからないが。

◎会長

地域の子どもは、地域で育てて、育った子どもは地域で働くという視点からも課題はないのかというご意見ですね。

□委員

今のご発言に関してですが、ほぼ半数が進学しており、実際、就職先につきましてもかつての明商設立時と違いまして、事務系よりサービス業等が多い。

地元で働くのは、ありがたいことですが、逆に、全県になって明石に通うことで明石の魅力を見つけてそこに住まいをかまえることもありますので、メリット・デメリットがあるんじゃないかと思っています。

□委員

同窓会としては、より多くの卒業生に入ってほしいですね。あんまり遠いところから来たら、地元に戻ってしまったら会に入っても人が少なくなってしまう。兵庫県ぐらいだったら、端から端までも2～3時間。車でも来れますが、東北とか九州になると交通面とか費用が大きくなる。240名ぐらいなら、もう少し広げても播磨町ぐらいまででいいのでは。

□委員

PTA のなり手がありません。くじびきや推薦という状況になる。みなさん働いているため、時間を取りにくい。行事をするにしても参加が少ない。部活動の試合だったら遠くても参加されるが、PTA の行事だったら参加されない。そのあたりの温度差がある。播磨町、稲美町、加古川市でも西の方でも通えるので、推薦だけでなく、一般の方も広げてもらおうと子どもたちも視野が広がるのではないかと思います。

□委員

校長が言われてたように、今、目の前の子どもたちを一人でも明石商業高校にお世話にやらせてもらいたい。学区が広がることに関して、通学に時間がかかって無理のある生活になっていないのか。現在、明石商業高校で、2時間もかかって通学しているような生徒はいらっしゃるのでしょうか。

□委員

通えない子は、学校の近くに住んでいる。一番遠い子は、1時間半ぐらいかかる。西は姫路市の西、東は尼崎市なので、1時間程度。

●事務局

通学に90分以上かかっている生徒が16名ほどいます。

□委員

全県学区にすることで、学校の魅力づくり、教育活動の活性化につながるかなということは今日思いました。行きたい学校にしていけないと全県学区にした意味がない。

競争相手が広がるということなので、それをするによって明石市内の中学生も意欲が高まることにつながるのではないかと。

□委員

学びたいことが学べる学校づくりを県が進めているということなので、それで選ばれる学校になるということは非常にありがたいことだなと思っています。機会均等という視点でいえば、他の地域からでも明商を受けるという機会を推薦の場合はあるが、一般の場合はないということは不合理ですね。他の町や学校はできているのになんで明商だけできないか。機会を失っている。今後ボーダレスの世の中で、逆行してまでするメリットはないのかなと思いました。

協議事項(2) 推薦入試の全国学区について

では、協議事項(2)「推薦入試の全国学区について」に移ります。

まず、委員の皆様から推薦入試において全県学区へ拡大することのメリット、デメリットなど、思いつく範囲、実際運営してみないとわからないことも多いのですが、いろいろな角度からご意見を聞かせて頂きたいと思います。

□委員

全国に明商で頑張りたいという生徒がいるということ自体が嬉しいこと。そういった生徒が学校を引っ張っていく原動力や明石の魅力を発信していく原動力になってくれないかなと考えています。数は少なくとも、1%でも推薦の枠を全国に広げていったほうがいいのではないかと思います

◎会長

全国学区にしても、一定の割合にする必要だろうというご意見だったと思います。

□委員

今の野球部なんかも、親の了解を得て、寮みたいなところに宿泊している。全国から集めるのであれば、寮生活の規律がきちんとあって、その責任者、寮長みたいな者がいて必ず規律を守らせる。目が届かなくなった時が心配。

◎会長

そういう意味で、事務局から市や町がバックアップしているという例を資料として出して頂いたと思います。

前回の意見も整理しますと、全国学区にする合理的理由が感じられないのではないかと。全国に例のない学科を立ち上げて、全国から生徒を集めようというものでもない。恵まれた応募状況の中で全国にする合理的な理由がないのではないかとということが一つあったのではないかと思います。

一方で、現実的には、運動部に全国レベルの子が集まることで活性化するという考え方もあります。また商業学科で全国に募集したとしても全国に商業学科がありますのであえて明石にくるのかというご意見もあったように思います。それから専門学科の全県的なバランスに影響があるかもしれません。全国学区にしましたら、生活環境への整備が必要なので全市の支援があるだろうというご意見もお伺いしました。

PTA や同窓会については、同窓意識が薄まるかもしれないし、明石に来てくなくても卒業したら地元に戻ってしまうことになりかねない、というご意見もありました。

□委員

私が勤務する学校では、進学校として有名な学校からの入学生がいる。よくよく聞いてみると、進路をあきらめて本校に進学してくる状況がある。元の学校から転校する形で本校に来ている。一概にバラ色の人生ではない。一つ考えていかないといけないところだと思います。卒業した後、就職ではなくても次のところにつながるような見通しがないとなかなか集まりづらいのかと感じたりすることもある。

◎会長

やってみないとわからないという部分はあるが、多様な地域からくることで学校が活性化するのはという考えもある。

□委員

教職員の意見は、全県学区への拡大はやって頂きたいというのが大半。全国区については一番多かった意見は、条件付きの賛成です。推薦入試の募集定員の10%であれば12人で、高校3年間で36人の生徒を一人で住ませることになることについて教育上課題、生徒指導上課題はないのかということです。特に住居、食事、健康管理そういうこともきちんと考える必要がある。条件整備が整えば魅力づくりにつながるのではないかというのが多数の意見です。

今まで、市内出身の生徒が占める割合の関係で全県に広げなかったのに、唐突に全国学区への拡大が出てきた。唐突感は明石市、市教委にはないのか。地域の方に喜んでもらえるのか。賛成派の中の二つ目の意見。

そもそもどんな生徒を何名とるのか十分協議しなければいけない。何も決まっていない段階で意見を聞かれても難しいという意見。

全国・全県をセットで考えるのではなく、全県については実施して、全国については必要に応じて協議してもらおうようそれぞれで考えてほしいという意見。

反対派は少ないが、時期早尚という意見。全県への拡大をまず早期に実施して、検証してから全国学区への拡大を検討という意見や周知不足による定員割れの問題もあるという意見。

◎会長

全国学区にしているところは、定員割れが続いている状況の中で少しでも生徒を確保したいということが背景にあるということでは、その点恵まれている明石商業高校では、違うスタイルで全国学区をめざす意識をお持ちいただきたいと思います。

例えば、学校がその地域からなくなってしまうことに対して税金を使う意識と、市外から来る生徒に対して環境整備に税金を使うことについて、市民はどう受け止めるか。その点も考慮していく必要があるのではないかと思います。

□委員

条件付きという話であったが、条件は別にして教員は全国学区へ拡大するメリットを感じておられるという理解でよろしいでしょうか。

□委員

より広く、意欲のある生徒が募集できると考えている。

□委員

今、全県学区への拡大ということになっていますが、兵庫県は範囲が広い中で、現実的に行政として遠方からの通学者に何か支援ができていないのかといえば、支援はできていない。

全国学区となり、大阪、岡山、北海道、沖縄からとなった時に、じゃあ、但馬からの生徒にどうするのかということと議論は同じになると思います。ですから、なかなか支援であるとか寮の整備については難しいと感じている現状であります。

□委員

西脇工業高校、社高校とかスポーツ科のある学校は寮がある。市立尼崎高校はない。寮ができればいいのかというと女子と男子を一緒に入れると問題なので非常に難しい。新たに、県立高校のシステムと違うことをやろうとしているので、それについて課題であったり問題があったら当然考えた上でやるべきだという意見であって、自分でも言いましたけど、住居の問題を解消するのは難しい。金銭的な援助についての意見はほとんど出てませんでした。そういう風にやろうとなったらじゃあこういう問題に対してどう考えてくれるかということところは職員に根強いものがある。そう聞いて頂けたらいいかと思います。

◎会長

はじめから結論ありきだったという風評は招きたくない。募集の仕方が難しい。運動部を活性化する方向で全国学区というよりは、明石商業高校の魅力で全国から募集するという特色化、魅力づくりの努力もお願いしたい。ある意味、市立学校が全国学区にすることは、画期的なことではあると思います。全国で募集することで何が得られるかによって、市民の応援を得られるかどうかが決まるという側面はあると思います。

□委員

お聞きさせて頂きながら、全県、全国学区にすることで明石市の子どもたちのレベルもあがっていくという思いをひしひしと感じました。明商が野球で盛り上がりこられて、明石市内で野球を頑張る子どもたちにも目を向けてほしいという思いもありますし、遠方から来られる方に住まいを提供し、そうやって強い明商の野球部ができあがっていることも、それはとり方を変えると明石市の子どもたちがもっともっとがんばらないといけないということにつながると思いましたので、今お聞きしていろいろ考えさせることができました。

□委員

仮に、全国に広めるにしても周知の方法はどうするのか。もし定員割れしたらどうするのか。各県の教育委員会に動くだけではなかなか難しい。

□委員

仮に全国にした場合、募集人員を10%にしないといけないのか。門戸を広げていますよという形ではダメなんですか。

◎会長

定員の何%以内とか方法もある。それならば、応募人数や合格者が少なくても定員割れにならない。

□委員

120名の推薦の枠でMAX10%以内という言葉を入れるだけで、5、6人でも定員割れを出さなくて済む。

□委員

外から来て明石の魅力に引かれて、定住する形もあるかもしれない。何十年前では、学力的な面から明石商業高校を受験している生徒がいたというような時代もあった。今、明商に行きたくても行けない子がいる現状となっている。学校に誇りを持てる生徒をどれだけ増やすかが魅力づくりにつながると思います。全国に広げることはリスクがあるかもしれませんが、ある面、自慢できる学校にするためには、明商に行きたいという需要が全国からあるということはとても嬉しいことです。

さらに発展していくためにどうしたらいいかを考えた時に、ここでとどまっているのはどうかということもあるし、門戸を開くことでさらに魅力ある学校になるのではないかと思います。

□委員

攻めの姿勢が私には少なく、メリットデメリットを考えていくなかで、デメリットがたくさんあるかなと思っていたのですが、そういった考えもあるのかなと思っています。やっぱりスポーツの力って大きいと思っています。先日、明商のサッカー部の3位決定戦の試合を見させてもらいました。スポーツによってみんなで団結するというか、あの力は大きいと思うので、商業科ですけれどもスポーツを頑張りたいという生徒が増えるというのはいいと思います。ただ、やっぱり全国区になれば残念かなと思います。それは、保護者の方が、市立尼崎高校はみんな尼崎の子ではなくて、強いチームはいろんなところから集まっていると言われるからです。得点を取った明石市内の子だったのですが、スポーツにはすごく力があるなあと思いました。

□委員

まず一般入試の全県学区を望まれている中学校も多い。

□委員

授業が一番大事なのですが、授業以外の生活のあり方、次に学校に入るまでの姿も見えていかなければならない。親が離れているなかで子ども同士的生活になるうえで、たばこやいじめ、男女の問題等いろんなことについて先生方が気をつけていかないといけなくなり、負担も増えるのではないかと思います。その点についても考えてもらいたい。

□委員

実施校では、推薦入試の全県学区ということで、募集定員に足らなくてやっているところであり、志願者の多い明商であえて全県学区にしなくてもいいのが私の意見です。できれば、条件付きということで割合は5～10%かわからないが、住まいの状況、先生の負担などなかなかリスクも高い。ただし、全国区になりつつある明商をもう一段階引き上げるにはいいなと思いました。ちょっとあいまいな意見ですが。

○副会長

全県になると明石の子が減るのが心配。全県は進めていって、全国は10%は多いと思うので、1%かなあ。5名以内とかにして明石の子が入れるようにしてもらいたい。

◎会長

全県について全国について、それぞれ教育委員会議で教育委員が方向を定められるための様々な意見の提示ということでお聞かせいただきました。事務局は、今出された多くの意見を正確に伝えて頂きまして、今後の方向性をすみやかに決めて頂く必要があると思いますのでどうぞよろしくをお願いします。ご質問がなければ、今後のスケジュールに関するお話に移らせて頂こうと思います。

●事務局

来年度入学者選抜において、学区を拡大するには、中学校の進路指導への影響を及ぼすことを考えると、先ほど説明した「明石市立高等学校の管理運営に関する規則」を改正する必要がありますので、県教育委員会や明石商業高等学校、中学校長会とも連携しながら、7月5日・19日の教育委員会議において、教育委員の皆様と協議を進めて頂こうと思っております。ただ、全国学区については課題が多く、もう少し時間がかかるかもしれませんが、何とか7月19日に決定すれば、7月20日が中学校の終業式ですので、中学校3年生へは周知できると考えております。

◎会長

ただいま、事務局より説明がありましたが、このことについて委員の皆様からご質問がありましたら、どうぞお出してください。(意見なし)

委員の皆様、ありがとうございました。

結論を出すまでにはあまり時間はありませんが、早急に取り組んでいただきますようよろしくお願いいたします。

本日は長時間にわたり、たくさんのご意見をいただきました。
明石商業高等学校の新たな魅力づくりに向けて、今後も協議いただきますようお願い申し上げます。では、司会を事務局へ戻します。

●事務局

廣岡会長、ありがとうございました。

5 連絡事項

では、連絡事項へ移ります。

次回の検討会議は、10月または11月に開催することを予定しております。本検討会議で協議いただきました学区について、教育委員会での決定内容を報告、次回は学科の在り方、特に国際会計科の活性化や保育に関する学びについて協議していただきたいと考えております。

開催時期が近づいてまいりましたら、担当から日程調整させていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、平成29年度 第2回明石市立明石商業高等学校魅力づくり検討会議を閉会いたします。